

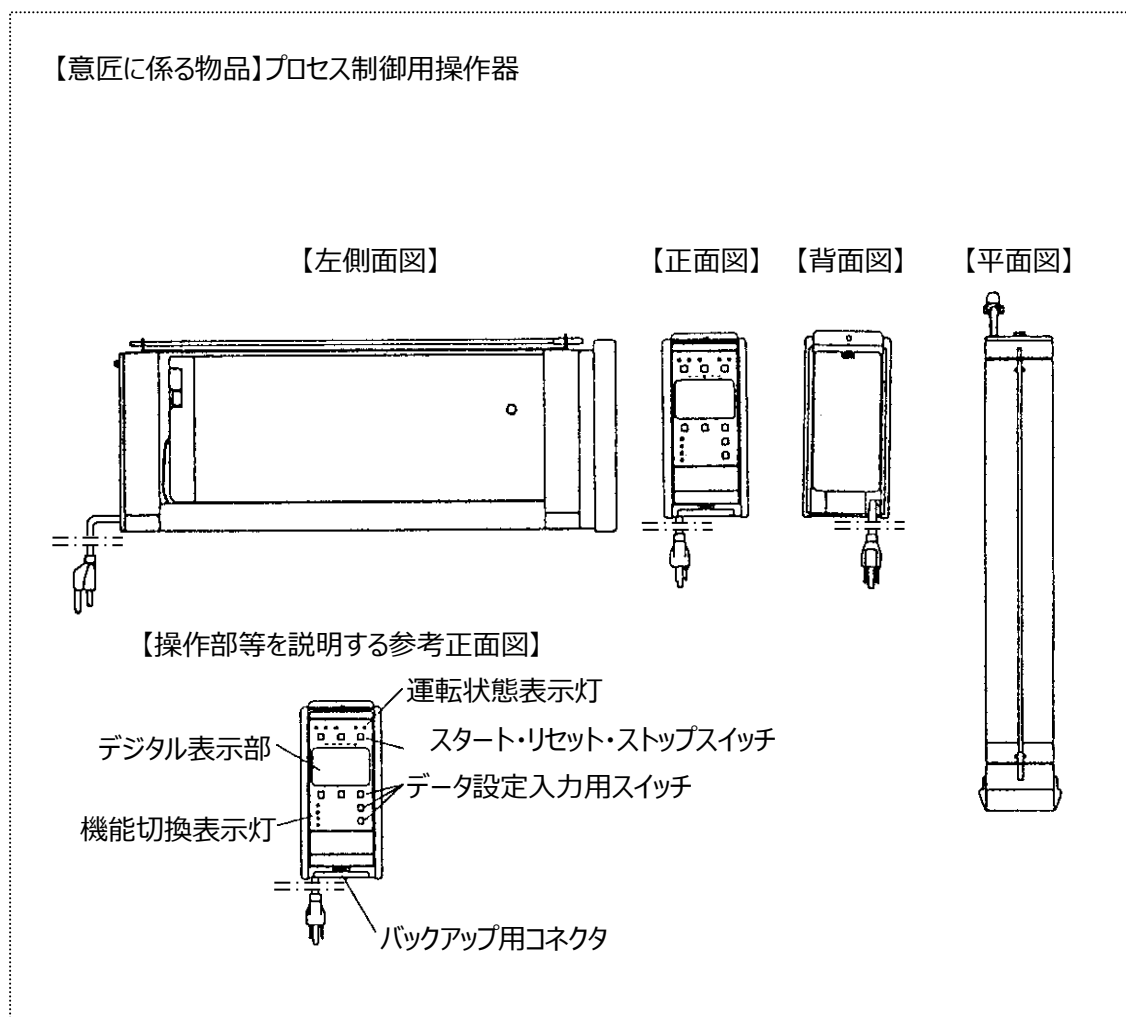
8. 極めて長い部分を有するものの場合

巻尺や建築用板材（長尺物を除く。）等のように長さは限定されているが、極めて長い部分を有しているために所定の範囲で作図することが困難であり、かつ、その長い部分の中間部分を一部省略（以下「中間省略」と略します。）しても意匠が明らかにわかるときは、「中間省略」した図とします。（様式 6 備考 14）

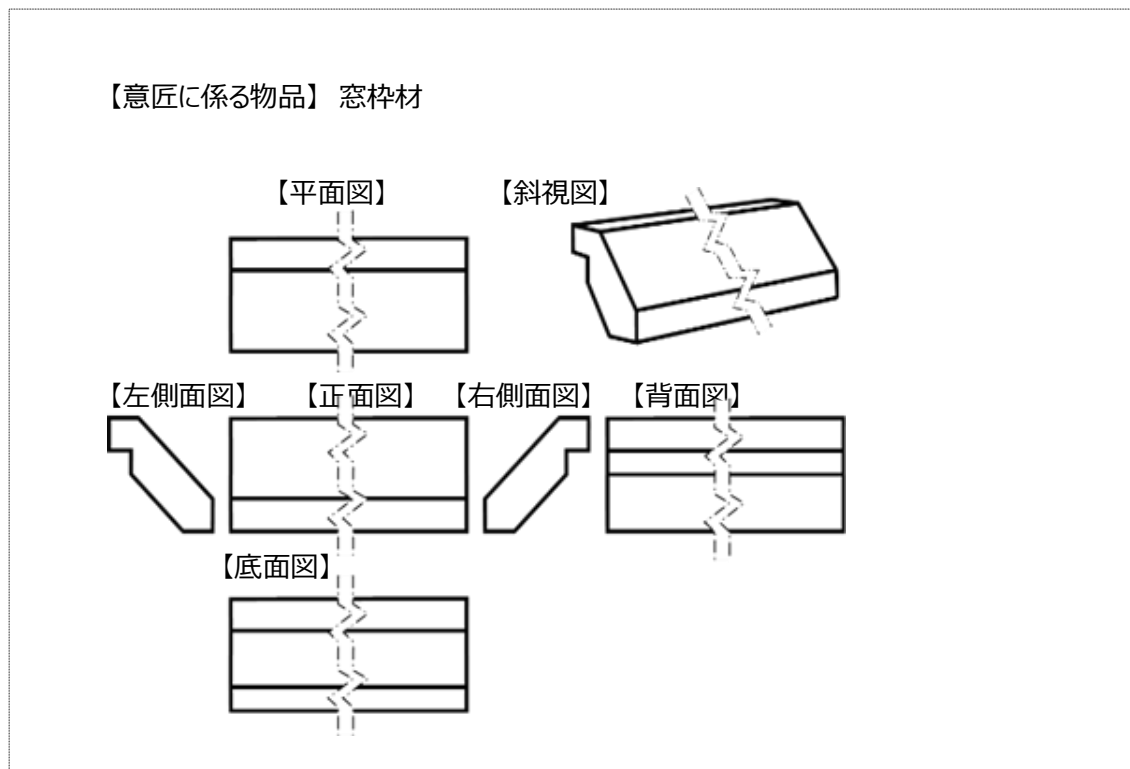
8.1 「中間省略」した図の描き方

「中間省略」の省略箇所は、例えば、二本の平行な一点鎖線で切断したように示す等により明らかにし、図面の記載のみでは意匠を明確に表すことができないときは、物品等の一部分の図示を省略した旨又は省略箇所の図面上の寸法を願書の【意匠の説明】の欄に記載します。（様式 6 備考 14）

〔図 3.8-1〕「中間省略」した図の例



〔図 3.8-2〕「中間省略」した図の例



8.2 極めて長い部分を「中間省略」できる場合

極めて長い部分を「中間省略」できる場合は、次の二つの要件の両方に該当する場合があります。

- ①極めて長い部分の形状または模様が一方向にのみ連続または繰り返し連続している場合
- ②全体をそのまま作図すると形状線がつぶれてしまう等、作図上の困難性がある場合、または、「中間省略」して描いた6面図等と、縮小して全体のプロポーションを描いた図とで表現した方が、全体をそのまま作図するよりも当該意匠の特徴を十分に表現できる場合

8.3 作図上の留意点

- ①「中間省略」する部分において、形状または模様が繰り返し連続している場合は、省略部分の前後においてその状態が明確となるように、繰り返し連続する場合の作図法〔6.「長尺物」の場合〕に準じた表し方をすること
- ②省略箇所は、原則的に一か所とすること
- ③全体のプロポーションを明確にする場合は、意匠の全体を描いた【縮小○面図】を全体のプロポーションの明確化に必要な面について記載します（詳細に描くことが困難な形状または模様は概略的表現で差し支えありません。）。
なお、意匠の全体を描いた図をほぼ正確に描ける場合は、「中間省略」をした図を拡大図とすることもできます。

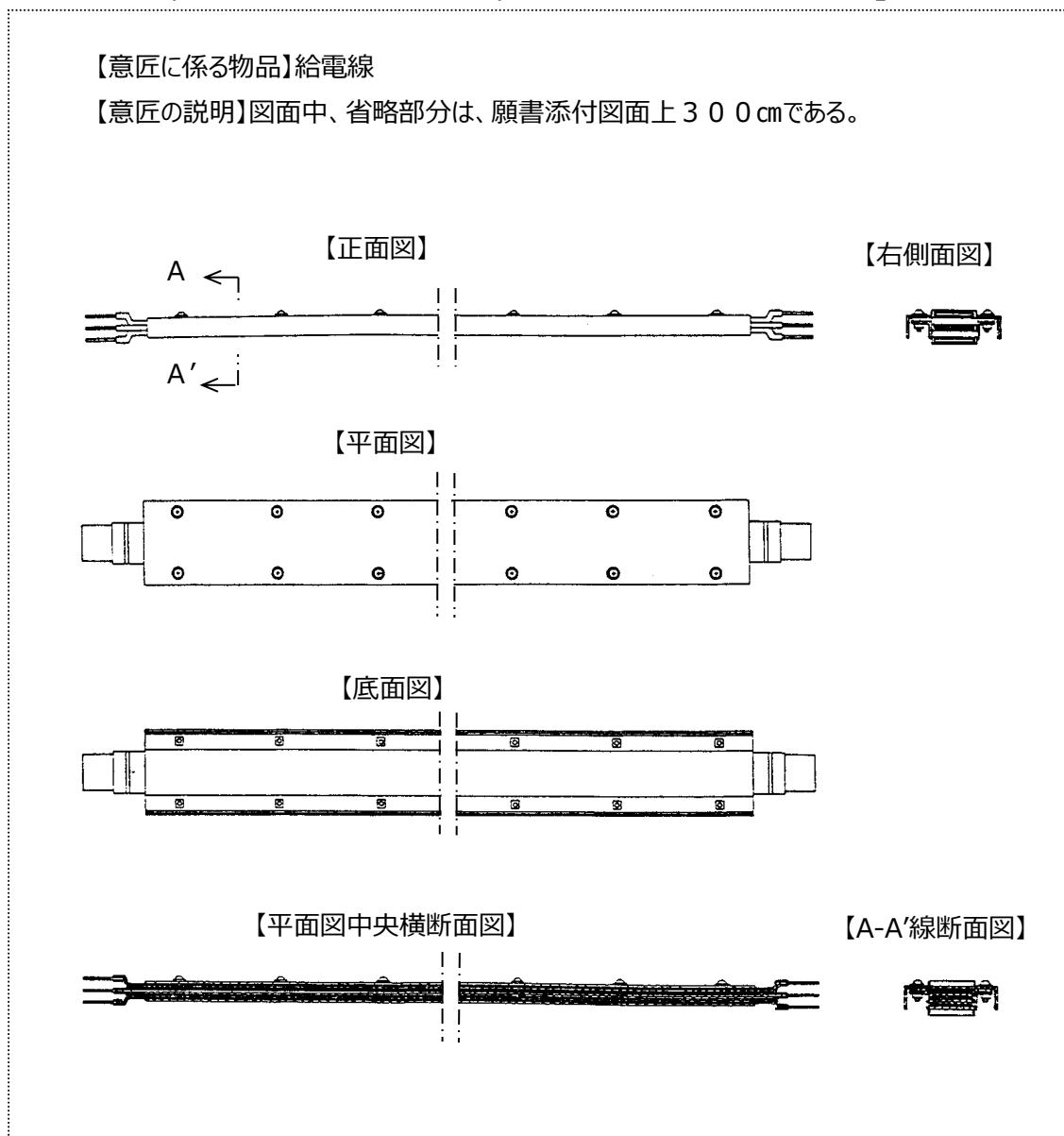
〔図 3.8- 3〕意匠全体の構成比率が特定できず不適切な例



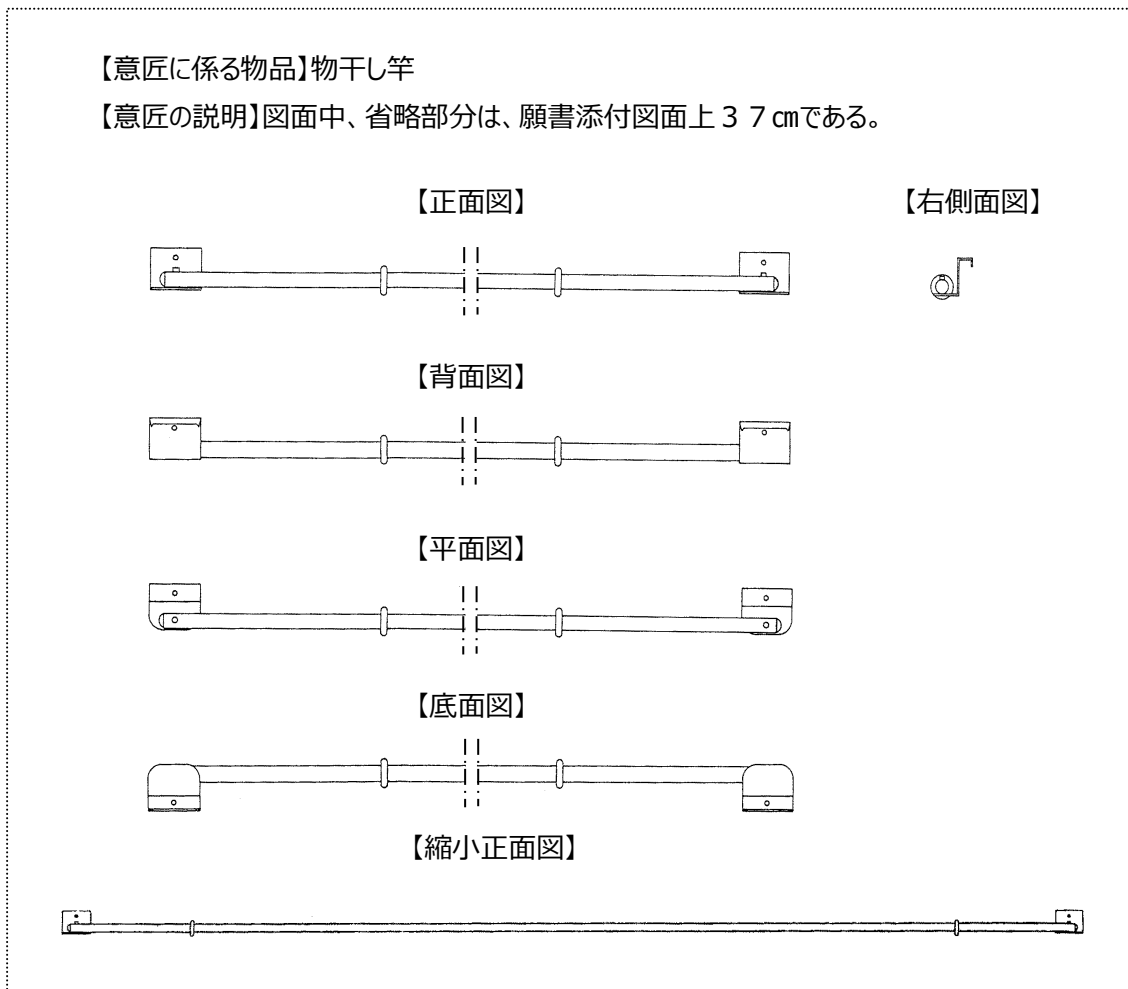
8.4 【意匠の説明】の欄の記載の留意点

【意匠の説明】の欄に省略した図面上の寸法を記載する場合は、その寸法は特定の長さとし、「省略箇所の図面上の寸法は、○cmである。」のように記載します。「省略箇所の図面上の寸法は、○cm～○cmである。」のような記載は特定の長さではないので、認められません。

〔図 3.8- 4〕極めて長い部分の形状・模様が繰り返す場合の「中間省略」の図の例



〔図 3.8- 5〕全体のプロポーションを表す【縮小正面図】を加えた例



8.5 電源コードの図示の省略

電源コードは、それ自体に特徴がなく、物品等の全体に占める割合も小さく、意匠の要旨の認定に影響を及ぼさない部分であることが多いものです。このような場合は、「中間省略」ではなく、電源コード全体を省略することができます。

〔図 3.8- 6〕電源コードの図示を省略した例

